2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>おおむね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> チームへの「土のう工法」を用いた道路補修トレーニングを実施し、3,441mの未舗装道路が補修され、住民の生活道路の通行性が確保された。 道路補修のインパクトをフォローアップミーティングで参加者から集約したところ（年間を通じた病院・学校等への公共機関へのアクセスが確保された、公共交通機関の料金が下がった、農作物の販売価格が向上した等の効果が確認された。
(2) 事業内容	<p>I 農民アソシエーションの支援を通じた「土のう工法」による道直しの推進</p> <p><u>活動1</u> アソシエーションの運営管理・技術能力強化のため、定期役員会の開催、役員の現場監督実習を行った。</p> <p><u>活動2</u> アソシエーションと関係機関の連携強化のため、関係機関（道路省、県、農業省、CDF事務所、カウンティ等）とのステークホルダーミーティングを開催した。</p> <p><u>活動3</u> 「経験者」を対象に、簡易施工計画書（見積もり）作成技術、現場監督技術、事業申請書作成技術の習得をカリキュラムに含んだ道直しトレーニングを実施した。</p> <p><u>活動4</u> 「初心者」グループを対象に、「土のう工法」を用いた道直しトレーニングを行った。</p> <p>II 生産組合に対する「土のう工法」による道直しの推進（セントラル州）</p> <p><u>活動5</u> 各県において、各生産組合のボードミーティングへの参加、KuRRA（ケニア農村道路公社地域事務所）での話し合いを行った。</p> <p><u>活動6</u> ケニアコーヒー公社等の農民組織に対し、生産工場と主要国道をつなぐ農村道路等での「土のう工法」を用いた道直しトレーニングを行った。</p>

(3) 達成された効果

活動1 アソシエーション役員による定期ミーティング (17回)、役員改選 (9月27日) が行われた。また、代表者 (20名) が現場監督として道直しトレーニング (活動3、4) に参加し、農民組織の自立のための組織運営能力、施工能力が強化された。新たな会社 (Five in One) が登録され、現在コントラクターとしての登録に向け活動を開始した。

活動2 関係機関 (KeRRA, KuRRA、カウンティ議員等) を招致したワークショップ (12月5日)、が開催され地方行政等に向けアソシエーションの活動が紹介された。

活動3 事業申請書作成技術の習得をカリキュラムに含んだ道直しトレーニングを実施した (表3)。アソシエーションメンバーが簡易施工計画書 (見積もり) 作成技術、現場監督技術、事業申請書の作成技術を習得し、トレーニング終了後、各グループで自主的な道直しに向けた活動が実施された (表4)。

表1 経験者向けトレーニングで行った道路整備内容 (活動3 ウアシングシユカウンティ)

	実施日	グループ名	参加者 (人)	施工距離 (m)	側溝整備	フローアップ実施日
1	10/18-29	カプレラッチ	33	126	185m	8/20
2	10/30-11/6	マザル	33	92.8	175m	7/19
3	11/20-26	シマット	34	229	390m	8/15
4	11/28-12/4	クカダ	36	87	352m	8/1
5	12/7-13	ジャシヨマレール	36	112	450m	8/16
6	1/8-14	オアシス	33	220	310m	-
7	1/15-23	キムリ	25	106	242m	8/30
8	3/28-4/5	ソングリエット	32	80	576m	-
9	4/10-16	セリトウェット	33	126	945m	9/3
合計			295	1,179		

表2 トレーニング実施後に自主的に行われた道直しに関するグループ活動

グループ名	活動内容
マザル	参加者 (3名) 15m 道路の補修 (土のう工法)、75m の橋を補修 (土のう工法)。 *メンバーが他の援助機関に資材を要請し、石、土砂の提供を受ける。現在さらに地域の議員に補修現場を視察してもらい、資材の提供を約束されている。
シマット	参加者が村の道路 6 か所 (98m: 50, 5, 10, 3, 30, 5m:) を自主的に補修 *4つの事業提案書を他の援助機関に提出し、園芸、養鶏の活動にそれぞれ 12 万シルの提供を受ける。
クカダ	3名で排水路 300m を補修
ジャシヨマレール	参加者が 3 か所 (90m: 20, 20, 50m) の農道を補修
フォーエバーユース	参加者 9名が農道 10m (1 週間) を補修
エペソ2	村人 20名で農道約 100m (土のう工法)、参加者が 35m (土のう工法) を補修
オレンゲセ	参加者が排水路 5m を補修
チュイヤット	参加者が 2m の農道の補修、100m の排水路を整備

活動4 道直しに初めて取り組む 12 の「初心者」グループを対象に、「土のう工法」を用いた道直しトレーニングを行い (下表5)、アソシエーションメンバー300名が「土のう工法」の基本技術を習得、275名に対し研修終了認定書を発行した。

表3 初心者向けトレーニングで行った道路整備内容 (活動4 ウアシングシユカウンティ)

	実施日	グループ名	参加人数	施工距離 (m)	側溝整備	フローアップ実施日
1	11/12-16	ファーエバーユース	25	113	262m	7/18
2	2/11-15	レヘマ	25	130	300m	8/21
3	3/20-4/24	エペソⅡ	25	100	200m	8/14
4	5/27-31	ムワトシャ	25	118	264m	8/30
5	6/10-14	オレンゲセ	25	80	913m	9/4
6	6/24-28	チュヤット	25	86	632m	9/6
7	7/8-19	チェプティレット	25	274	242m	10/4-8
8	7/22-27	キプカレン サウス	25	156	352m	9/23
9	8/5-9	キプカレン ネノ	25	115	260m	9/24
10	8/12-16	エウエロ フルマ	25	110	220m	8/30
11	9/3-9	フロントライン	25	105	224m	-
12	9/9-17	スポディア ムーブメント	25	120	260m	10/4
合計			300	1,507		

活動5 各県において、各生産組合のボードミーティングへの参加、KuRRA（ケニア農村道路公社地域事務所）での話し合いを行った。

活動6 コーヒー組合等の農民組織に対し、生産工場の周辺または敷地内の道路での「土のう工法」を用いた道直しトレーニングを行い、生産組合員280名が「土のう工法」の基本技術を習得、755mの道路補修が行われた（下表6）。

表4 生産組合に対して行った道路整備内容（活動6 キアンブ、ムランガカウンティ）

	実施日	グループ名	参加人数	施工距離 (m)	側溝整備	フローアップ実施日
1	1/28-2/1	コモタイ組合（カネケ工場）	26	106	120m	9/5
2	2/11-15日	コモタイコーヒー組合（カムチェゲ工場）	24	71.8	143.6m	9/6
3	2/21-27日	ギティツコーヒー組合（カルエティ工場）	30	69.8	127.6m	8/23
4	3/18-22日	カグエティ 紅茶会社Ⅰ	24	76.6	163.2m	-
5	3/25-4/4日	カグエティ 紅茶会社Ⅱ	24	47.8	197.6m	-
	5/28-31日	（カグエティ 紅茶会社Ⅰ、Ⅱ）	25	72.4	221.6m	-
6	4/8-5/24日	ガリマユ 乳業組合	25	87	90.4m	9/13
7	6/3-7	キアンバー コーヒー組合Ⅰ	25	63.3	63.3m	9/11
8	6/17-21日	キアンバー コーヒー組合Ⅱ	25	84.5	84.5m	9/11
9	7/15-19日	ギティリコーヒー組合	26	54.1	104m	-
10	7/22-26	キノグラマ コーヒー組合	26	22	-	-
合計			280	755.3	3.3	

○上位目標に対する成果

- 本事業を通じた直接裨益者数： 875 人
- 間接裨益者数： 31ヶ所×周辺住民2千人＝6.2万人
- その他

※フローアップで行ったミーティング（活動3,4の15グループ）での行った、道直し後の生活の変化の実感について、主なものを抜粋

1. 公共施設へのアクセスの向上による生活の改善について

①診療所へのアクセスの向上（14グループ）

- 妊婦や病人、子供を連れて母親が診療所に早く安全に行けるようになり、死亡率が減少した。
- 診療所で分娩するケースが増えた。
- 薬を運ぶ車両が通行できるようになり、薬が定期的に手に入るようになった。
- 側溝が整備され排水が向上したので、マラリアが減った（3グループ）。

②教会へのアクセスの向上（13グループ）

- 教会に来る人が増え、セミナーや集会、結婚式がが多く開かれるようになった。
- 礼拝が時間通りに始まるようになった（牧師が時間通りに到着する）。
- 服を汚さないで礼拝に出られるようになった。長靴を履かないですむようになった。
- 新しい教会が増えた（建設資材が簡単に届くようになった）。

③学校へのアクセスの向上（12グループ）

- 子供が雨期でも自分で安全に登校できるようになり、遅れなくなった。
- 子供が学校に通いやすくなったため、生徒数が増加した(400→500名、200→300名)
- 車が通れるようになったため、試験に必要な用具が時間通りに届くようになった
- 子供たちの制服や靴が汚れなくなった。
- 新しい私立学校ができた。

④Cattle Dipへのアクセスの向上（7グループ）*家畜の感染症予防のための薬浴槽（1週間ごとに家畜へ消毒薬の塗布が実施される）

- 利用する家畜の数が増加した（2ヶ所で倍増 1000→2,000頭、400→1,000頭）。

⑤その他（役場、集乳場、ショッピングセンター等へのアクセスの改善等）

2. 公共交通機関の料金の変化について

もっとも身近な交通手段であるバイク、自転車タクシーの料金が下がったと回答するグループが多かった(表5)。料金が高くなったと回答したグループに関しては、修繕した箇所以外の道路状況がさらに悪化したためと考えられる。

表5 道直しの前後で比較した、交通・運搬料金の変化についての実感調査

	回答グループ数	安くなった	高くなった/変わらない
バイクタクシー	13	8	5
自転車タクシー	7	5	2
小型トラック	4	2	2
中型トラック	4	2	2
運送用トラクター	5	5	3
ロバ	10	6	4

3. 農作物の販売価格の変化について

表6 道直し前後での農作物の販売価格の変化についての実感調査

	回答グループ数	高くなった	安くなった/変わらない	販売価格の上昇倍率の平均
トマト	6	6	-	1.5
キャベツ	6	6	-	3.9
グリーンピース	6	6	-	2.7
ケール	9	8	1	2.5
卵	7	7	-	1.7
メイズ	10	10	-	1.6

	<p>道直しを行う前後の農作物の販売価格の変化を聞き取り調査を行ったところ、ほとんどのグループが道路補修後に、農作物の販売価格が上昇したと実感している（左表 6）。運搬車両の通行が改善されたことが一因と考えられる。</p>	牛乳	7	7	1	1.5
		豆類	6	6	1	1.1
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> 現在 URDA (Five in One) が申請しているコントラクターとしての登録を早期に完了させ、地方行政機関からの道路工事施工などを請け負える体制を整える。 					